

「やみに輝く光」
イザヤ書 60章 1～5節

今日からアドベントです。クリスマスのメッセージを聞きましょう。
ここ数年の間、世界を苦しめたのは、何と言ってもコロナでしょう。
世界で、2億7千万人が感染、死者530万人。国内では感染者172万人、
死者1万8千人を出しただけでなく、私たちの日常生活も大きく変えて
しまいました。

このような時、光をどこに求めたらいいのでしょうか。旧約聖書の中
にイザヤ書という書があります。預言者イザヤの預言を記したものです。
イザヤの生きた時代は、イエス・キリストが生まれるおよそ700年前
でした。国は北部のイスラエルと南部のユダに分裂し、イザヤの時代に
北部のイスラエルはアッシリヤ帝国に滅ぼされてしまいました。南部の
小国ユダにも侵略の手が伸びて来ていました。イザヤは神から遣わされ
た預言者として、人々に神のことばを宣べ伝えました。今日は、イザヤ
の語ったことばから主イエス・キリストの誕生の意義を学びましょ
う。

1. 見よ。やみが地をおおい、暗やみが諸国の民をおおっている（2）。

当時の世界を支配したアッシリヤ帝国は、イスラエルを滅ぼした勢い
に乗って、ユダをも滅ぼそうと狙っていました。イスラエルの国もユダ
の国も、神に選ばれたアブラハムの子孫の国で、エジプトで奴隷になっ
たときも、モーセによって救いだされました。後に、王を建て、ダビデ、
ソロモンの時代に反映しましたが、ソロモン王の後、国は北と南分裂し
てしまったのです。

イザヤの時代のユダの国は、世界の祝福の基となるために神に特別に
選ばれた民であるにもかかわらず、神に背き、信仰は偽善的になり、真
の神を拝む代わりに偶像礼拝も行われ、社会には不正が横行し、性道徳
は乱れ、金持ちはますます金持ちになり、貧しい人々は食べるものにも
困る有様でした。

このように、外からはアッシリヤ侵略、国の中は社会的な腐敗で、ま
さに「暗やみ」に覆われている状態でした。そこにイザヤは神から遣わ
されたのです。

適用：外からの不況、内からは凶悪犯罪、親殺し、子殺し、離婚、大麻
汚染、性犯罪、性道徳の乱れ等々。今の世界と日本は、正に暗闇に

覆われているような状態です。

2. しかし、あなたの上には主が輝き、その栄光があなたの上に現れる。

(1) 当時の人々への励まし。

イザヤは、やみがどのように人々を覆うとも、神の民には主とその栄光が輝くと宣言し、人々に神を信じ、どんな時でも神に信頼するように励まし続けました。

適用：神様のみことばは、どんな時にも、神様の光は失われることはありませんと教えています。神様には、必ず希望があるのです。それを信じる人は、決して失望しません。使徒パウロはこう語っています。「私たちは、四方八方から苦しめられますが、窮することはありません。途方にくれています、行き詰まることはありません。迫害されていますが、見捨てられることはありません。倒されますが、滅びません」(Ⅱコリント4:8-9)。

(2) メシヤ(救い主)到来の預言

もう一つ、イザヤの預言で注目すべきなのは、やがて世の救い主(メシヤ)が現れ、人々を救うという預言です。その救い主がおいでになることを期待して、希望を失わないようにしようと呼びかけたのです。

① イザヤ 7:14 インマヌエル

ここには、処女が身ごもって子を産むこと。その子はインマヌエル(神がともにおられるという意味)と呼ばれると預言されています。

② 9:6-7 永遠の王

ここでは、その子は力ある神、永遠の父、平和の君と呼ばれ、永遠の国を治める方であると預言されています。

③ 53:1-12 苦難のしもべ

この子は、主のしもべとして育ち、人々のために苦しみ、人々の罪を負って死ぬと預言されています。

適用：このように、旧約聖書には、救い主の到来が数多く預言されていますが、イザヤの預言は具体的です。

聖書が、確かで、信頼できるのは、預言が実現していることです。私たちは、聖書に希望を持つことが出来ます。イザヤは、こう語りました。「草は枯れ、花はしぼむ。だが、私たちの神のことは永遠に立つ」（イザヤ4:8）。

3. 新約聖書のことば

（1）マタイの福音書1:21-23

処女マリヤは子を産み、その名はイエスと付けられる。人々を罪から救うためであり、それはイザヤ書7章14節の成就だと言われています。

（2）ルカの福音書1:32-33

その子は、いと高き方の子と呼ばれ永遠の国を治めると言われています。イザヤ9:6-7

（3）使徒8:32-36

イザヤ53章が引用され、その方がイエス・キリストだと言われています

4. まとめと勧め

やみが地をおおい、暗やみが世界をおおっていても、希望があります。それは、神による希望です。救い主はおいでになりました。新約聖書は、そう私たちに伝えています。2千年前にユダヤの国ベツレヘムでお生まれになり、布にくるまり、飼い葉桶に寝かされた幼子。そして、やがて人々愛を説き続けた人。しかし、十字架で殺されたあのイエス様が旧約聖書で語られたメシヤ（救い主）だと言うのです。そして、イエス様は、死んで三日目に復活し、生きた救い主として天で私たちのために神にとりなしをしておられるというのです。

イエス・キリストを信じる者は、ユダヤ人でも、ギリシャ人でも、ローマ人でも、どのような国人々でも、誰もが一つの国民となるということです。それは神の国です。そして神の国は、始まりました。イエス・キリスト以来、全世界に広がっています。ここに、希望があると聖書は伝えています。

数年前に、私たちは韓国の教会を訪問しました。その旅で、韓国の古都慶州に行った時のことです。私たちは、「ナザレ園」というキリスト教施設に案内されました。ここは、キム・ヨンソン先生が1972年に作った高齢者、心身障害者の施設です。そこで身よりのない日本人のお年寄りを見ておられるのです。

韓国のお年寄りでさえ施設に入れない人がたくさんいるのに、なぜ日本人をかばい保護するのかを抗議も受けたそうです。韓国の方の日本人に対する感情は、皆さんのもご存じのように厳しいものがあります。日本人は、王を奪い、国土を奪い、耕地を奪い国語を奪い、名前を奪い、国民を奪い、命を奪った。それだけではなく、日本の敗戦で日本が引き上げた後、国土は2分された。おまけに膨大な軍事費を負担しなくてはなくなった。だから、日本のように経済成長ができなかった。そういう気持ちをもっています。しかし、キム先生はキリストの愛を実践し、日本のお年寄りの面倒を見ておられます。

神様の前には、韓国人も日本人もないというのが先生の考えです。キム先生のもとで、身よりのない日本のお年寄りたちが本当に幸福そうに暮らしているのを見て、感激しました。

私が若かったころ、東京の足立区に金城先生という韓国のお医者さんがいました。この方は、毎日のように上野の地下道に行って、戦災で家を失ったたくさんの人たちに食べ物を配っていました。日本長老教会の金小益牧師は、今でも毎週荒川の河川敷でホームレスの人たちに食べ物は衣服を配り、神のみ言葉を伝えています。

神様は、イエス様を知って変えられた韓国の人々を用いてくださっていることを目にしてきました。私たちの教会には、韓国の方々が何人も来ておられるので、今晚はこういうお話をしました。私たちも、イエス様に出会うなら、変えられるのです。

結論

クリスマスに人々の心が暖かいものを感じるのは、そこに神様の愛の

メッセージがあるからです。イエス様がお生まれになったということは、神様のご愛を私たちははっきりと見る事が出来るようになったという事ではす。私たちは、今晚、このメッセージを聞いています。あなたもイエス様のところにおいでになりませんか。イエス様は言われました。

「すべて疲れた人、重荷を負っている人は、わたしのところに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます。」「わたしのところに来る者を、わたしは捨てません」

「見よ。わたしは、戸の外に立ってたたく。だれでも、わたしの声を聞いて戸を開けるなら、わたしは、彼のところにはいって、彼とともに食事をし、彼もわたしとともに食事をする」

最後に、瞬きの詩人と呼ばれた水野源三さんのことばを読みます。

朝祈る前に 夜ねる前に 「神は愛なり」「神は愛なり」と心の中で
唱えてみよう

涙ぐむ人にうなだれる人に「神は愛なり」「神は愛なり」と 祈りを
込めて話しかけてみよう

苦しみの夜に 悲しみの時に 「神は愛なり」「神は愛なり」と ま
ぶたを閉じて思い巡らそう

み恵みによって集ったならば 「神は愛なり」「神は愛なり」と 声
を合わせて讃美しよう

祈りましょう。